



Doshisha University Academic Repository

同志社大学学術リポジトリ

研究室だより、執筆者紹介、編集後記、編集委員、 奥付

著者	同志社社会学研究学会
雑誌名	同志社社会学研究
号	1
ページ	162-164
発行年	1997-03-31
権利	同志社社会学研究学会
URL	http://id.nii.ac.jp/1707/00020812/

大学院社会学専攻の現在についてまずお知らせしなければならないことは、博士後期課程がようやく認可され、4月から発足することです。後期課程は1学年定員5人、担当教員は6人です。

カリキュラム構成は、(1)個人の生き方や家族生活を中心に「生活世界」と外部社会との関係を研究する「社会学特殊研究Ⅰ」、(2)情報化社会や地域社会を中心に「現代社会」の構造・変動を研究する「社会学特殊研究Ⅱ」、(3)アジア・太平洋地域に焦点をおいて「国際社会」を研究する「社会学特殊研究Ⅲ」の3分野からなっています。

1993年に大学院修士課程ができてから博士後期課程が認可されるまで2年の不幸なブランクができてしまいましたが、ようやく願いが達成され、学部から博士後期までのフルサイズの教育機関となります。博士後期課程の発足により、これまでの修士課程は博士前期課程となります。

修士課程ができてから今日までの間に教員の構成もかなり変化しました。1994年の秋には大学院設立の推進役として働いてこられた松本通晴先生が病気のため他界されました。1996年には中道實先生が奈良女子大学に移られ、また、今年4月には青木康容先生が仏教大学に移動されます。

一方、新しい何人かの教員を迎えることもできました。1996年には鯉坂学先生が広島大学から、そして、服部民夫先生が東京経済大学から同志社にこられます。また、本年4月からは、これまで新聞学専攻におられた北村日出夫先生が社会学専攻に移られます。これらの先生方に加え、井垣章二先生、三沢謙一先生、天木志保美先生、森川真規雄の4人の総勢7人が学部および大学院の運営に携わります。

博士後期課程には4月に7人の学生を迎える予定です。また、前期課程にはやはり7人の新しい院生が入学します。この合計14人のほかに、現在前期課程には16人の院生がおり、大学院全体としては学生数30人の大所帯となります。規模としては関西でも大きな社会学専攻大学院になるといえます。

今後は教員・院生一体となって、規模だけではなく質においても全国に誇れるような大学院をつくりあげていかなければと思っています。

(森川)

天木 志保美 (あまきしほみ)
同志社大学文学部教授
家族社会学

服部 民夫 (はっとりたみお)
同志社大学文学部教授
比較社会学、開発の社会学

小林多寿子 (こばやしただこ)
日本女子大学人間社会学部助教授 (1980年同志社大学卒業)
ストーリーの社会学、都市社会学

伊藤敏安 (いとうとしやす)
(社) 中国地方総合研究センター主任研究員・地域経済研究部長、広島修道大学非常勤講師
(1977年同志社大学卒業) 地域社会研究

林 史樹 (はやしふみき)
総合研究大学院大学博士後期課程 (1992年同志社大学卒業)
文化人類学、韓国社会研究

栗谷 佳司 (あわたによしじ)
同志社大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程
社会理論、文化社会学

藤本 昌代 (ふじもとまさよ)
同志社大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程
情報社会学、組織コミュニケーション論

金 香男 (きむひゃんなむ)
同志社大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程
家族社会学、韓日比較社会学

栗本 修滋 (くりもとしゅうじ)
同志社大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程、栗本技術士事務所代表
環境社会学、地域社会学

杉本久未子 (すぎもとくみこ)
同志社大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程、ピー・エヌ研究所代表
地域社会学、コミュニティデザイン・ベロップメント研究

小林大祐 (こばやしだいすけ)
同志社大学大学院文学研究科社会学専攻博士前期課程
消費社会論

中嶋道博 (なかじまみちひろ)
同志社大学大学院文学研究科社会学専攻博士前期課程
情報社会学、政治社会学

奥村隆宏 (おくむらたかひろ)
同志社大学大学院文学研究科社会学専攻博士前期課程
社会病理学

(所属は1997年4月1日現在)

◆編集後記◆

この「研究誌」を発刊する計画が具体化したのは1996年の秋からでしたので、原稿を募集するのが大変に遅れました。にもかかわらず、教員の論文、修了生・卒業生の論文、今春入学予定の大学院博士課程後期の第1期生の論文、そして前期課程の院生による書評論文という形で、13名の方が投稿してくださいました。特に、お忙しい中、締め切りまでに時間がなかったにもかかわらず、寄稿して下さった修了生・卒業生の方々に厚く御礼申し上げます。

同志社の社会学も学内外の関係者の皆様のお陰で、ようやく新しい一步を踏み出したという感慨がします。この「研究誌」が現代社会学の発展に何ほどかの寄与をし、また社会学の研究者や専門家を育てる培養器の一つとなることを願っております。編集作業は後発のメリットを生かすべく、院生と教員が知恵を絞ったつもりですが、ご意見、ご感想などをおよせください。次号への多数の投稿をお願いします。 (鯨坂)

編集委員

鯨坂 学
森川眞規雄
秋庭 裕
藤本昌代
杉本久未子
平井 順

同志社社会学研究 「創刊号」 NO.1

1997年3月31日発行

発行人 同志社社会学研究会

〒602 京都市上京区今出川通烏丸東入

TEL.075-251-3441 FAX.075-251-3066

制作・印刷：(株) ビレッジプレス

「同志社社会学研究」編集規定

1. 本研究誌は同志社社会学研究学会の機関誌として社会学の研鑽に寄与し、また会員相互の研究交流に資することを目的とする。
 2. 掲載内容は以下のものとする（枚数：400字）
 - 研究論文（40～60枚）
 - 研究ノート（20～30枚）
 - 学会・研究動向（10～20枚）
 - 書評・紹介（10～15枚）
 - 研究室だよりなど
 3. 編集委員は本学社会学専攻教員、同院生及び同卒業生の代表により構成される。
 4. 投稿者は本学教員、同院生、同卒業生とする。
 5. 原稿は未発表のものに限る。掲載の可否は、専門のレフリー（本学教員+外部の専門家各1名）の審査の結果を受け、最終的に編集委員会が行う。
 6. 原稿の締め切りは9月末、発行は翌年1月とする。
 7. 執筆要項
 - 横書き、口語常体、完成原稿で提出。註や参考文献の書式は日本社会学会機関誌「社会学評論」に準じ、論文の最後に別々にまとめる。詳しい執筆要領は別に定める。また、印刷の校正回数は2回とする。
 8. 提出原稿の形式
 - 題目は日本語と英文タイトルをつけ、フロッピー1枚とハードコピー（40字×40行）を3部提出。（フロッピーは1.4MBを使用し、MS-DOS及びMACのテキストデータとする。）
- *その他の事項については、社会学の研究誌としての性格に鑑み、編集委員会が対応する。